

桜島の昭和火口からの噴火について

噴火警戒レベルを3（入山規制）へ引き上げ

桜島昭和火口（南岳東斜面の標高 800m 付近）では、昨日（13 日）21 時 39 分に、爆発的噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が最大 4 合目（800～1300m）まで達しました。

今後も同程度の噴火が発生するおそれがあることから、昨日（13 日）22 時 35 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 k m 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には土石流に注意が必要です。

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、13日21時39分、爆発的噴火¹⁾が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が4合目（昭和火口から800～1300m）まで達しました。

今後も同程度の噴火が発生するおそれがあるので、13日22時35分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

・噴煙活動の状況（図）

昭和火口では、13日21時39分に爆発的噴火が発生し、噴煙は火口縁上1200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は4合目（昭和火口から800～1300m）まで達しました。

火砕流は発生していません。

・地殻変動の状況

GPS連続観測では、顕著な地殻変動は認められません。

なお、国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な変化が続いています。

・地震及び微動の発生状況

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ
(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ
(<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) で閲覧することができます。

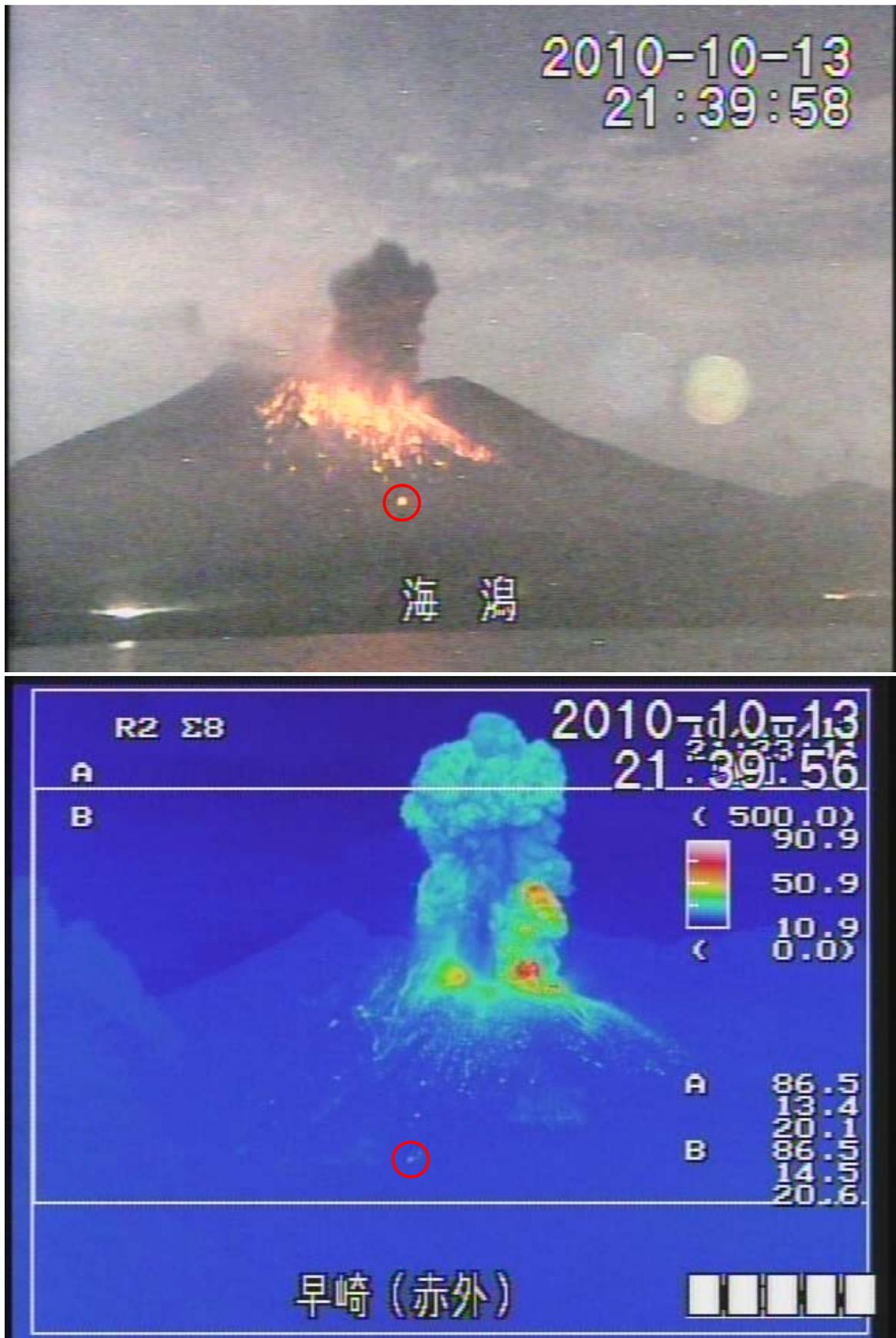


図 桜島 13日21時39分の爆発的噴火（上：海潟カメラの可視画像、下：早崎カメラの熱画像）
噴煙は火口縁上1200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は4合目（昭和火口から800～1300m）まで達しました。
※図中の赤丸は4合目まで飛散した大きな噴石を示す
※九州地方整備局大隅河川国道事務所設置の監視カメラ（海潟カメラ：昭和火口から南南東約6km、早崎カメラ：昭和火口から南東約5km）による